

CS-Lung参加施設紹介

島根大学 医学部附属病院

呼吸器内科

(呼吸器・化学療法内科)



内容

1. 病院と診療科の紹介
2. 初期研修のポイント
3. 呼吸器専門研修のポイント
4. 研修の実際について



病院と診療科の紹介

- 島根大学医学部附属病院（病床数600床）は「地域医療と先進医療が調和する大学病院」を理念とした地域の中核病院です。
- 内科系診療科として、消化器内科、肝臓内科、循環器内科、呼吸器・化学療法内科、血液内科、内分泌代謝内科、脳神経内科、腎臓内科、膠原病内科、腫瘍内科があり、救命救急センター、総合診療科や院内の多診療科、多職種との連携をとり、専門的かつ幅広の研修が可能です。
- 呼吸器内科は専門分野を持ちながら、個々の患者さんのニーズに応えられる総合力の高い 医師を育成します。各自が“明日は今日よりもさらに良い診療、教育を提供し、研究を進めていこう”と日々考えをめぐらせて進歩していく、信頼、尊重、改革の3要素を多職種、多診療科の対話によって身につけることが、われわれの教育理念です。



内容

1. 病院と診療科の紹介
- 2. 初期研修のポイント**
3. 呼吸器専門研修のポイント
4. 研修の実際について



島根大学呼吸器内科**初期臨床**研修：ここがポイント！

- 救急からコモンディジーズの診療まで、呼吸器領域の広い分野の研修が可能！
- 呼吸器コモンディジーズ（肺炎、COPD、気管支喘息、間質性肺炎、肺がん）のガイドラインに準拠した診療スタイルを身につけることができる！
- 胸部レントゲンとCTの系統的な読影について学ぶことができる！
- 新型コロナウイルス感染症への対応を学ぶことができる！
- 終末期医療の患者対応の実際について学ぶことができる！
- 屋根瓦式の教育・研修体制を組み、常に上級医からの指導を受けることができる！



初期研修医の研修目標

- 内科診療の基本を身につけ、主な呼吸器疾患について生理検査・画像検査を含めて幅広く学び、呼吸器内科領域の基本的な診療ができる。
- がん診療の基本を学び、肺癌を主とした悪性腫瘍の基本的な診療と薬物療法、副作用対策ができる。
- 新型コロナウイルス感染症を含む感染対策と呼吸器感染症の診断と治療ができる。
- 呼吸器内科の手技（胸腔穿刺、胸腔ドレナージ、気管支鏡）の基本を身につけることができる

内容

1. 病院と診療科の紹介
2. 初期研修のポイント
- 3. 呼吸器専門研修のポイント**
4. 研修の実際について



島根大学呼吸器内科**専門医**研修：ここがポイント！

- 呼吸器領域の広い分野の研修が可能
- ガイドラインに準拠した診療スタイルを身につけることができる！
- 個々のニーズに合わせた働き方の選択が可能！
- 完全当直、待機医師制度のため、オン・オフが明確化される！
- チームによる教育・研修体制を組み、常に上級医からの指導を受けることができる！
- 希望する専門医、学位の取得が可能！



呼吸器専門医に必要なトレーニング



技術

画像診断力
手技力: 気管支鏡
処置力: 胸腔ドレナージ
呼吸管理



専門医として必要な技術を
伝授する指導医が揃っています！



説明

患者・家族へ
・悪い知らせの伝え方
カンファレンス
学会発表・抄読会



患者・家族へ説明する際の言葉選びを
教えます！

カンファレンスや、学会発表における
良いプレゼンテーションのノウハウを教
えます！



高める力

研究力
外来力
・外来化学療法
・抗体薬、抗線維化薬
アリケイスなど



専門医として養うべき研究力と外来力を
高めることにより、臨床研究の能力や、
外来での高度医療を実践することが可能
となります！

島根大学呼吸器内科**専門医**研修：取得可能な資格

- 新専門医制度に対応した、総合内科専門医、呼吸器専門医、がん薬物療法専門医、老年科専門医、アレルギー専門医の取得が可能です。
- 学会認定の資格として、気管支鏡専門医、結核・抗酸菌症指導医、肺がんCT検診認定医、ICDの取得が可能です。
- 専門医などの資格を得るために必要な学会発表、論文作成について、定期的な面談、進捗状況の確認を行い、多くの業績をあげることが可能です。
- 大学院には働きながら入学が可能な社会人入試枠が設置されており、いずれも専門医を取得するために病院に勤務しつつ、研究指導医のもとで臨床研究を実施、論文化し学位を取得することが可能です。研究テーマについて定期的な面談を重ね、学位となるテーマの学会発表、論文化の丁寧な支援を行います。



内容

1. 病院と診療科の紹介
2. 初期研修のポイント
3. 呼吸器専門研修のポイント
4. 研修の実際について



週間スケジュール

	午前	午後
月	モーニングカンファレンス 気管支鏡カンファレンス チーム回診	気管支鏡検査 外科内科合同カンファレンス 放射線治療カンファレンス（隔週）
火	モーニングカンファレンス チーム回診	気管支鏡検査
水	モーニングカンファレンス チーム回診 研修医向けセミナー	気管支鏡検査 局所麻酔下胸腔鏡検査
木	モーニングカンファレンス チーム回診	勉強会、抄読会 学会などの報告会 入院症例カンファレンス
金	モーニングカンファレンス チーム回診	

島根大学呼吸器内科講座**関連病院**



大学病院と近い距離にある島根県立中央病院とは密接な診療連携を行っている。
大田市立病院、浜田医療センターは、専門研修の際に、奨学金制度への対応（松江、出雲市以外の病院研修）が可能。

関連病院の全Drが参加する島根呼吸器懇話会



令和 5年 11月 18日

呼吸器病学は面白い！

島根大学で呼吸器内科診療を開始して20年になりました。2004年に1名の呼吸器専門医で始まった呼吸器内科は、現在は県内に3つの関連病院をもち、多くの素晴らしい仲間が集うグループになりました。そこで、大学の会議室に大学の呼吸器内科と関連病院の全メンバーが集まり、各病院から症例を提示して検討する会を対面で開催し、画像診断、機能検査、血液検査などについて、若手からエキスパートまで、和気藹々と語り合う症例検討会、ならびに話題提供、Year in Reviewによる生涯教育を行い、日々のカンファレンスや学会・講演会とは一味違った、抜群の呼吸器病学の面白さを感じたいと思います。

症例検討会は大いに盛り上がって予定の時間を大幅に超過し、有意義な討議ができました。

12：00（司会：浜田医療センター 柳川崇 先生）

「COVID-19の診療について」

島根大学総合医療学講座 濱口俊一 先生

12：50-14：50 症例検討会

総合司会：島根大学 津端 由佳里 先生

★各関連病院から1症例学会形式で発表

- ・浜田医療センター 河野 謙人 先生
- ・大田市立病院 吉原 健 先生
- ・島根県立中央病院 貴谷 夏州 先生
- ・島根大学

15：00（司会：総合医療学 濱口 俊一 先生）

「大学と市中病院の診療の違いについて」

島根県立中央病院 呼吸器科 堀田尚誠 先生

15：40 < Year in Review >

- 1) 気管支喘息 天野 芳宏 先生
- 2) 抗酸菌症 磯部 威 先生
- 3) 呼吸器腫瘍 奥野 峰苗 先生

日本呼吸器学会 呼吸器内科領域専門研修制度施設群

1.基幹施設	国立大学法人 島根大学医学部附属病院	島根県
2.連携施設	松江市立病院	島根県
2.連携施設	松江赤十字病院	島根県
2.連携施設	独立行政法人国立病院機構 松江医療センター	島根県
2.連携施設	独立行政法人国立病院機構 浜田医療センター	島根県
2.連携施設	公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院	岡山県
2.連携施設	独立行政法人国立病院機構 岩国医療センター	山口県
2.連携施設	独立行政法人国立病院機構 東京病院	東京都
2.連携施設	板橋中央総合病院	東京都
3.特別連携施設	島根県立中央病院	島根県
3.特別連携施設	医療法人沖縄徳洲会 出雲徳洲会病院	島根県
3.特別連携施設	沖広域連合立 隠岐病院	島根県
3.特別連携施設	雲南市立病院	島根県
3.特別連携施設	公益社団法人益田市医師会立 益田地域医療センター医師会病院	島根県
3.特別連携施設	社会医療法人仁寿会 加藤病院	島根県
3.特別連携施設	社会福祉法人恩賜財団 島根県済生会江津総合病院	島根県
3.特別連携施設	出雲市民病院	島根県
3.特別連携施設	出雲市立総合医療センター	島根県
3.特別連携施設	大田市立病院	島根県
3.特別連携施設	医療法人 岩国みなみ病院	山口県

専門研修医の声

- ・ チーム制として、日々チームリーダー、同チームの上級医とのスムーズな報告・連絡・相談が可能な体制になっている。気管支鏡検査、胸腔鏡、胸腔ドレーン留置等の手技だけでなく患者への病状説明でも定期的に指導医が同席し、その場で速やかに実践的なフィードバックを受けることができる。
- ・ 基礎研究・臨床研究問わず、自ら抱いたクリニカルクエスチョンを基にした研究を継続できる。定期的な教授面談、リサーチカンファレンスで進捗を報告するとともにその時点における問題点、研究進展のためのヒントを得ることができる。大学院生には年1回研究月を付与され、臨床を継続しつつ研究に専念できる環境が整っている。
- ・ 専攻医1年目の早期から、外部の病院の呼吸器内科外来を任されることで早くから外来診療にも慣れることができる。入院で診るような疾患と合わせて、呼吸器疾患を幅広く経験することができる。

専門研修医の声

- 後期研修一年目から主治医として自分が主体となって患者さんの治療方針を考え決めるので、勉強になります。
- チーム制で診ているので、気軽に上級医に質問、相談しやすい環境です。
- 定期的にカンファレンスを行い情報共有しているため、チーム外の上級医にも相談しやすく、チーム同士で互いにサポートできる体制です。
- J-OSLER、J-OSLER呼吸器については、指導医が毎月症例登録が病歴要約の進捗状況をチェックする体制となっており、症例をきちんと積み重ねていくことが可能で、3年間での内科専門医研修の修了がストレスなく行えます。

指導医の声

- J-OSLER、J-OSLER呼吸器については、1名の専攻医に対して1名の指導医がつく担当制にしており、計画的な症例登録ができるように指導しています。
- 専攻医のうちから臨床研究を1人1つ以上担当してもらうことで、臨床研究を推進していくノウハウを早くから身につけてもらっています。
- 積極的な学会発表を推進しています。専攻医3年目までに全国学会での発表を行うことを目指し、データベース作成や倫理委員会への申請などの指導を行っています。
- 大学院生については一人につき1か月/年の研究月の取得を可能とし、臨床と研究の両立が図れるように配慮を行っています。
- ダイバーシティ、合理的配慮について研鑽を積んでおり、理解のある職場です。

島根大学医学部 附属病院 呼吸器・化学療法内科

講座のホームページ <https://shimane-u-pulmonary-oncology.jp/>

業務の連携と効率化

患者・家族・医療者の全員参加

医学の進歩がもたらす利益が
共有できる社会

